

みず
水

ぐるま
車



(財)新松戸郷土資料館館報

第1号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 0473-44-1909

発行年月日 昭和62年3月27日

もくじ

◇民具写真—藻刈り—	1
◇区画整理前・整理後の写真	2
◇(財)新松戸郷土資料館の 展示室について	3
◇展示品の寄贈者名	3
◇「藻刈り用具」	4
◇日誌抄	4



土地区画整理前の新松戸



土地区画整理後の新松戸

(財)新松戸郷土資料館の

展示室について

私たちの街新松戸は、近年まで江戸川低地に広がる水田村落として発展してきました。ただし、千代田線と江戸川に挟まれた下谷地区は三年に一度の収穫があればよいといわれた水害の多い地域でした。それが多くの先人たちの労苦と知恵によって、明治期には人もうらやむ一大美田地帯に生まれ変わったのです。下谷を流れる「母なる川・坂川」の恵みをうけることができたのです。

しかし、その美田地帯も昭和四十年代になると宅地化と水質の汚染が急速に進み、さらに国鉄武蔵野線の新設も計画されました。このために、首都圏の都市化に対応した理想的な都市建設を目的として、昭和四五年十二月に松戸市新松戸中央土地区画整理組合を設立し、総事業費二〇二億円、面積一四四・七八ヘクタールの新松戸街づくり事業をおこないました。

私たち組合の都市計画事業は、「古い歴史のある新しい街新松戸」の街づくりを念願として出発したもので

す。先人たちの築いた伝統を現在に生かし、私たち組合の事業完成の記念館として、さらに地域住民の対話の場となる新松戸郷土資料館を昭和五八年三月に開館したのも、この理念にもとづいております。私たちは新松戸のより一層の発展を期して、郷土資料館の財団法人化を千葉県教育委員会に申請し、昭和六一年八月に財団法人新松戸郷土資料館の設立の認可をうけることができました。

(財)新松戸郷土資料館は新松戸地域の公益法人として文化活動をおこない、地域住民の相互理解を深め、新松戸地域及び松戸市の発展に寄与することを目的としております。このために、(財)新松戸郷土資料館の定款では、

(一)新松戸郷土資料館における史料民俗品の展示

(二)新松戸地域における習俗の調査研究

(三)上記に関する出版物の刊行及び講演会

(四)その他、前条の目的を達成するために必要な事業

という文化活動をおこなうことにしております。

新松戸の歴史は大きく見て海の時代、

湿地帯の時代、新田開発の時代、

耕地整理事業の時代を経て、美田が

松戸市新松戸中央土地区画整理組合

の事業によって計画都市変ってゆく

歩みとなります。郷土資料館の展示

室では、新松戸の歩みを「新松戸

の土地と人の歴史」というテーマで

とらえ、さらに「新松戸の大昔」・

「新松戸の旧六ヶ村」・「江戸時代の

新松戸」・「坂川の流れ」・「新

松戸の誕生」・「くらし・今と昔」

という六つのコーナーで、それぞれ

民具・農具・写真・文献などを展示

して解説しております。これらの展

示品の多くは組合員のみなさまから

寄贈されたものです。また、新松戸

の自然と歴史を直接に自分の目で確

めることのできる「新松戸周辺の埋

没古地形」・「坂川水系」・「下谷

の農家」・「昭和二年新松戸及び

その周辺村落」・「都市建設の完成

した新松戸」という模型も展示して

おります。さらに、各コーナーごと

に展示替をおこなう予定です。

展示室を一人でも多くの方々にご

利用していただけることを願ってお

ります。資料館の展示についてご質

問や意見がございましたら、遠慮な

く館員におたずね下さい。

展示品寄贈者

五十音順
敬称略

秋山昇治	鈴木貞義	荒木美佐保	鈴木繁	池田清	関繁雄	石井倉藏	関武夫	石井康雄	千代田昭	市川毅	戸張広哉	鶴殿亘	中村益男	大井弘好	萩原守	大井房藏	林正義	大川堯	日暮正吉	大熊義光	古家亀操	大倉邦夫	八木原文吾	旧大谷口新田消防団	谷口きよ子	恩田唯一	谷口光平	恩田隆一	谷口隆一	小金中宿町会	湯浅定治	斉藤和實	吉岡昭	酒井美千代	吉岡政治	酒巻啓	吉岡登	篠山昌平	吉野進
------	------	-------	-----	-----	-----	------	-----	------	------	-----	------	-----	------	------	-----	------	-----	-----	------	------	------	------	-------	-----------	-------	------	------	------	------	--------	------	------	-----	-------	------	-----	-----	------	-----

御寄贈いただきました品々は、新松戸の歴史として、大切に展示・保管してまいりたいと存じます。又、右の方々に厚く御礼申し上げます。共に、今後も、新しい資料をお寄せ下さいますことをお願いいたします。

「藻刈り用具」

下谷低地の藻刈りは、江戸時代初期の新田開発の時期より明治、大正、昭和と変わりなく続けられてきた重要な年中行事の一つでした。坂川や用排水路には、水の流れを悪くするトチカガミ・マコモ・ヤナギモなどの藻が、水田には稲の成長を防げるアオイ・ヒルムシロが繁殖し、永年に渡って人々を悩ませてきました。

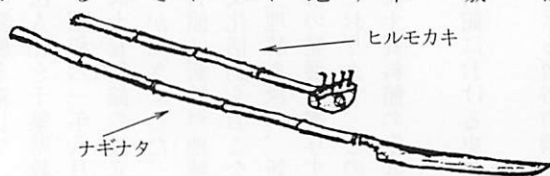
文化十年（一八一三）、下谷低地の悲願であった第一次の坂川排水工事が終わりました。しかし、計画通りには水が流れず、その原因を藻の繁殖にあるとみた幕府の役人が、名主、組頭、百姓代などの村役人に、藻刈りに精出す事を誓約させました。天保八年（一八三七）、坂川関係二四ヶ村により、水路の全長九千九拾八間（約一六^{キロ}）を、村々の耕作面積にに応じて藻刈りを行いました。

藻刈り作業は、水量の増す六月から八月にかけて、村総出で分担を決め、上流から下流へと刈り取っていきましました。藻刈り用具には、さまざまな工夫が凝らされています。水の

中に入り、藻や水辺の草を刈る長柄（一、二^ミ）の「藻刈り鎌」。刃、柄が共に長く（全長三、四^ミ）、土手より水中の藻を刈り取る「ナギナタ」。水田のヒルモをかき取る「ヒルモカキ」。そして、刈り取った藻を引き上げるための「マンノウ」があります。暑さの中、重労働で刈り取った藻は田舟で運び乾燥させてから、肥料として田畑に敷き込みました。

大正十三年、日本に移入されたアメリカザリガニが、各地で大繁殖するようになりました。しかし、アメリカザリガニによつて水田は荒らされましたが、裏腹に、藻刈り作業は省けるようになりました。やがて、坂川改修が行われたり、乾田の時期が長くなると、藻も繁殖しにくくなりました。

人々を悩ませてきたこの藻も、一方では、水の浄化と小魚など（タナゴ・ナマズ・カラス貝）を、繁殖させるという恵みがありました。



日誌抄

昭和61年

8・1 新松戸郷土資料館財団法人化
26 多摩市区画整理組合来館
30 NHK・FM千葉「流山電鉄沿線」取材

9・4 「古文書を読む会—中級—」講座開催（十回シリーズ、以後 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{3}{8}$ 、 $\frac{3}{16}$ ）

10・28 研修（埼玉県戸田博物館）
30 横須賀小学校四年生来館（ $\frac{1}{24}$ 、 $\frac{1}{12}$ ）

11・1 館報「水車」創刊

14 馬橋小学校四年生来館
23 第十六回公開講座開催「松戸の縄文遺跡」

昭和62年

1・20 新松戸南小学校五年生来館（ $\frac{1}{24}$ 、 $\frac{1}{12}$ 、 $\frac{1}{24}$ 、 $\frac{1}{20}$ ）
23 建設省制作映画「坂川の流れ」取材

2・5 松飛台小学校教員来館
12 幸谷小学校三年生来館
19 旭町小学校三年生来館
3・18 馬橋北小学校三年生来館（ $\frac{3}{20}$ ）
29 第十七回公開講座開催「歴史の捉え方」
29 松戸ボーイスカウト来館

＜資料館利用のご案内＞

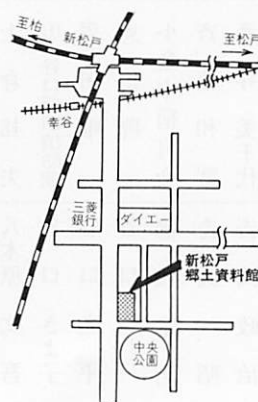
▽開館日 毎週水曜・日曜日

▽時間 10時～16時（ただし、入館は15時30分迄）

▽入館料 無料

▽所在地 松戸市新松戸3-27

▽電話 新松戸市民センター3階
☎ 44・1909



編集後記

◇桜のはごろぶ春に、「水車」第一号をお届けいたします。

◇流鉄二両編成の「菜の花号」で新坂川沿いのお花見を、お楽しみ下さい。

◇三月いっぱい、専門委員と館員三名がOBになりました。今迄の少しない協力に感謝し、気持ちも新たに「土地と人の歴史」をテーマに、スタートしたいと思います。皆様の御感想を、お聞かせ願えれば幸いです。